
疑惑不快談

デクテール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

疑惑不快談

【Nコード】

N8047C

【作者名】

デクテール

【あらすじ】

読んだ後もやややした気分になる不快な怪談です。怖くは無いです。

(前書き)

怖くは無いです。

世の中分らないことだらけ。

「俺さつき幽霊見たんだよ」

「マジで？どんな奴だよ」

「それがさ、赤い服着てて髪が足元まであつて目から血を流してて真っ青な顔してんだ」

「怖っ！」

「しかもさ、そいつ頭が無いんだよ」

旧校舎4階のトイレ。

一番奥の個室に『はなこさん』と呼びかけると誰もいないのに返事が返ってくるらしい。

「はなこさん」

個室から声が聞こえた。

「いませんよ」

林間学校に来た。

裏にお墓がある不気味なところだ。

夜中枕元に誰か立っていた。

海パンはいて水泳帽をかぶった誰かが……。

触ると死ぬなぞの石を探してここに来た。

痩せこけた老人が座っている。

その前にはどくろの形の石。

事情を説明した。

「触ってみるか」

老人はそう言って自分が座っていた石を指差した。

ある人物を殺そうと思い呪術師のもとを訪れた。

呪術師は私にこれを渡した。

『飲むと死ぬ呪いの硫酸』

良く効きそうだ。

真夜中の神社。

藁人形に必死で釘を打ちつける男がいた。

「田中の奴。俺の彼女どころか彼氏までとりやがって！」

『食べると死ぬ呪いの肉塊』

「徳川家康もこの肉を食べて死んだんですよ」

呪術師は言った。

江戸時代からの鯛なら殺傷能力は高いだろう。

駅前にある呪われた家。

不動産や曰くまだ住んだ人はいないそうだ。

『この男、殺すと死ぬ』

文章と一緒に写真が貼ってあった。

どっちの意味だろう。

（後書き）

感想待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8047c/>

疑惑不快談

2010年10月28日07時37分発行